

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100453		
法人名	株式会社コスモライン		
事業所名	グループホーム 和の杜		
所在地	釧路市星が浦大通り3丁目2番14号		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果市町村受理日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住みやすい環境作りを始め、その日そのを大切にし、目配り、気配りに努め、衣・食・排を重視したケアをおこなっている。利用者の健康を考えて、温熱・電位治療器ローズテクニを使用している。利用者・家族・職員がありのままの姿で向き合う事で良い関係作りが出来ている。職員は仲間を大切にチームとして自覚を持ち一体となって活き活きと働いている。開所10年が過ぎ、その中で学びえた物を大切にし日々のケアに活かし取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100453-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100453-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、長年にわたり介護職務に従事している管理者の下、利用者が自分を大切にしながら馴染みの環境の中で、職員とともに笑顔のある生活を送れるよう努め、家族からの信頼を得ている。重度化や看取りについては、利用者・家族と話し合い同意を得て契約書を交わしている。また、介護日誌などを詳細に記録し、計画に反映させている。協力医療機関の医師から指導や助言を受け、チーム支援を目指して日頃より学習の機会を持っている。外部研修会や職員による学習会も随時行われ、管理者は職員が自由に話し合える環境を作っている。地域との交流もあり、町内清掃日には、利用者が職員とともに参加し、地域住民とのコミュニケーションを大切にしている。家族からの意見や要望にも迅速に対応し、利用者本位の生活を送れるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、職員が意識する様に努めている。利用者・地域の方々・家族・職員が一体となり、馴染ある環境の中で仲良く助け合い、明るく生きがいのある暮らしが出来るよう努めている。	理念はホーム内に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、馴染みの環境の中で助け合い明るく生きがいのある暮らしが出来るように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	開所当初は周りに民家がほとんどなく、交流は望めなかったが、ここ2～3年間で民家や同施設が少しずつ増え、各施設との交流や・企業事業所に防災時の協力や冬期間の除雪のお願い等している。	住宅や介護保険施設も増え、交流も増えてきている。同法人の小規模多機能施設も近隣にあり、行事などに利用者が参加をしている。防災時には近隣企業の協力がある。冬季間の除雪は向かいにある事業所に協力を依頼し、町内会の清掃日には利用者と一緒に参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会へ加入し認知症の方への理解をして頂いている。新たに出来た施設との交流も行い、徐々に増えてきている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・包括支援センター・町内会の方々に参加して頂き、年6回実施している。日々の様子や、様々な状況を報告し話し合いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は年6回行っている。会議では事業所の取り組みやサービス状況を報告している。会議の中では市役所から情報提供があった災害などについて町内会長が報告し、話し合い、意見をサービス向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告等、必要に応じて連絡を取っている。	管理者や職員が市担当者・社会福祉事務所に出向くなどし、担当者との連携を図りながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「利用者一人ひとりの人格を尊重し、常に利用者の立場にたったサービス提供に努める」と心して受けとめケアに努めている。	事業所内研修や外部研修などを受け、職員が身体拘束について理解し、日常業務の中でその都度確認しながらケアに取り組んでいる。防犯の為、玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場になり、自分の身に置き換えたらと、会議等で話し合いおこなっている。研修への参加し振り返りを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学び、ホームにて職員全体で振り返り学んでいる。家族より相談を受けた場合は都度対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かい事についても説明し、不安や疑問点があれば、わかり易い説明を心掛け、理解・納得して頂ける様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時、困った事や気になる事が無いか、こちらから訊ねると共に、気軽に話せる関係作りを行い、意見・要望がある際は聴きすぐに反映している。	家族の来訪時や運営推進会議の中で意見や要望を聞き、気軽に話ができる関係作りに努めている。意見・要望があれば迅速に対応し、家族に伝え運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて情報・意見交換を行うと共に、日々個々に意見がある際は聴く機会を設け反映させている。	職員は会議などで意見を個々に述べている。職員同士の連携も良くケアについて話し合い、運営に反映させている。管理者は職員個々の意見を聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の仕事への緊張感を軽減できる時間を大切しながら、生き生きと働ける環境作りを心掛けている。また常に、向上心を持って様にはたらきかけている。手当等の見直しも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修等で学べる環境作りを行い、個々のスキルアップにつなげている。また、日々のケアを通し、介護技術やその内容などに目配りし気が付いた時には、都度働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流・情報交換を行い、情報交換等を行い、その後も継続して交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時、相談・面談を行い環境への不安・知らない人への不安において、安心して貰えるよう働きかけ、信頼して頂ける様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを選択された家族の気持ちを受け止め、時間をかけて話を聴き、気が付いた事など遠慮なく話せる雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている状況把握に努め、様々なサービスの相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	知恵・知識などを含め場面場面で学び、助け合い感情を共感し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族・家族あつての利用者の関係を大切にして、より深く理解し合える関係作りにつとめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴を詳細に聞き取り、安心して暮らしていける様配慮している。友人の訪問・昔馴染みの場所への訪問など関係が切れない様努めている。	友人の訪問があったり、外出して馴染みの美容室を利用するなどしている。また、昔懐かしい場所へドライブに出かけたりしている。家族の協力で自宅に行くなど関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重してその人らしさを活かし、心身の状態も考慮し楽しく過ごせる様見守りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	園芸ボランティア・草刈ボランティアに来てくれたり、近に来て際に来訪してくれ、現在の状況や昔話をしながら利用者も一緒に時間を過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の今までの生活歴を把握し、本人の希望・意向に添える様努めている。また困難なケースは都度皆で話対応している。	利用者個々の生活歴を把握し、日常生活の中で本人の希望や意向に添えるように努めている。困難な場合は職員・家族と話し合いながら検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し家族やケアマネージャーより情報を貰っている。また、日々の暮らしの中で本人・家族より話を聴く事ができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケースの過ごし方、心身の状態、出来る事・できない事を把握し、情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態に合わせ、本人や家族と話し合いをして、より良い生活が送れるように介護計画を作成している。また、重度のケースは医師・看護師の助言を聴き介護計画作成に取りれている。	担当者が家族や利用者から希望を聞きながらアセスメントし、会議の中でモニタリングを行い、利用者が楽しく暮らせるよう介護計画を作成している。また、身体の状態により医師や看護師の助言を得ながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態・ケアの内容を細かく日誌に記入し情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、その時々に応じて柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同系列のホームへの訪問や町内会行事へ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援診療所との医療連携により、定期的に医師の往診があり、適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医への受診は原則家族が同行しているが、家族の都合により職員が同行する場合もある。月2回、医師の定期往診や訪問看護師が定期的に利用者の健康チェックを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携により、月2回訪問があり、健康相談をしてもらっている。日々の生活の様子を伝え、指示・助言があった際は実行し経過を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医との連携により、入院時は速やかに行っている、また、入院中も面会し症状が緩和されホームでのケアが可能になったと医師の判断時は早期退院しホームで安心して生活出来るよう病院の相談員と連絡を取り対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状態により、早期に看取り介護について家族と十分な話し合いを行い、往診医とも話し合い同意のもとに方針を共有している。	重度化や終末期に向けた事業所方針を利用者・家族に説明している。早い段階から家族と話し合いを重ね、往診医と家族、事業所で方針を共有し、チーム支援に取り組みながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故などを想定した訓練を行っている。また、皆でマニュアルの読み返しなどを行い確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合い訓練や自主訓練を行い、事故に戸惑わないようにしている。地域の方々の文章にて協力依頼をしている。	年2回、夜間を想定し消防署立ち合いの下、避難訓練を行い、利用者が避難出来るように全職員で取り組んでいる。火災の場合は近隣の住民・企業の協力が得られるようになっている。	火災や地震、水害などの災害時に迅速に避難が出来るよう近隣の事業所と一時避難場所の提供を結ぶことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわない様に、言葉かけや居室への出入り・開閉等にも配慮している。個人上なども会議で話している。	内部研修で接遇研修などを行い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を学習している。居室への出入りも本人の許可を得たうえで、利用者と一緒に入室するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを察し、希望などが言い易い環境作りにも心掛けている。また自分で選択できる状況づくりもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、個々の介護の状態などを含め不安の無いように過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にしなが、着易さ・動き易さも考えておしゃれをして頂ける様にしている。化粧も本人の希望でしている。訪問美容師さんに月1度来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などは本人の好みの物を聴き一緒に食材の仕込みをしたり、皆で食事を楽しんでいる。日々のリクエストにも答えられるよう努めている。	季節行事や誕生日など利用者の好みを取り入れながら職員と一緒に準備をし、楽しい食事となるよう支援している。利用者のリクエストに応じて、外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や器の工夫をし、水分なども飲みやすい物の変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の洗浄が困難なケースに対しては、義歯洗浄は職員が対応しているが、自分で可能なケースにおいては、個々に見守りをしながら出来ない細かい部分を援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせた排泄パターンを記録・把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るようにしているが、状況によっては、パット使用している。	排泄パターンを記録し、個々の状態を把握しながら声掛けや見守りをし、トイレでの排泄が出来るように支援している。布パンツの人が多く、状況によってはパットも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を個々に記録・把握し、水分摂取・運動・食事に気をつけている。又、便秘症の方には往診時相談し、下剤使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の身体状況を考慮しながら、その時々で入浴を楽しめる様支援している。重度のケースは職員2名で対応し危険のないようにしている。	利用者の身体状況を考慮しながら声かけを行い、入浴支援している。入浴時に職員と話し合うことを楽しみにしている利用者もいる。洗い場も広く身体機能の低下がみられる利用者には2名で対応し、危険がないよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身・身体の状態・状況に応じて居室で休まれたり、自由に過ごしたり、フロアにて自由に過ごしている。個人の好む休息や過ごし方が出来るようしえんしている。夜間帯は安心して眠れるように声掛けも気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に保管し、内容も個々にファイルして。職員は服薬内容を理解し、皆で症状の変化等の確認に努めている。服薬変更時も同様である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「やりたい」という気持ちを尊重して、出来る事を楽しみながら行って貰えるよう支援している。また、個々の趣味も体調に合わせて出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って、買い物・ドライブ・食事・自宅等へ外出を行っている。外出が困難なケースにおいても出来る限り工夫をして行く機会を作っている。外気に触れる機会を多く作れるようウッドデッキの活用もしている。	利用者の希望に沿って散歩や買い物・ドライブ・外食の支援を行っている。また、家族の協力で自宅などへ外出している。外出困難な利用者には外気に触れられるよう、ウッドデッキでの日光浴を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事が困難になっているケースには、外出時のみに所持出来るように対応し、本人が希望されているケースには、家族と話し合い常時所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族や友人からの電話には都度対応しているこちらからの電話も希望にてしている。手紙などは便箋・封筒等用意しておいて本人が出したい時に出せるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう季節にちなんだ装飾をおこなっている。ウッドデッキに鉢植えの花を置いてホーム内から見える様にしている。また、居室内に個々の好みの装飾もしている。冬期間においては乾燥防止の為加湿器を各居室においている。	共有空間は清掃が行き届いており、壁には季節が感じられるような装飾が施されている。空気清浄器が設置され、温度調節にも配慮している。利用者は居間にある個々の場所で居心地よく過している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々状況に応じて対応している。気の合った同士で居室内にてお茶会をしたり、ソファにてゆっくり過ごしたり利用者同士の交流が出来る様にしている。また、一人の時間が持てるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にその人が好まれたもの、使い慣れた物などがあれば持ってきてもらっている。入居後も本人の希望するものは持ってきてもらっている。	居室に大きな引き出しつきのクローゼットが設置され、車いすの利用者も広く使えるよう配慮されている。壁には家族写真や自作の作品が飾られ、使い慣れた小物類を持ち込み居心地よく過ごせるように工夫がされている。また、各居室に加湿器も設置されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かして安全に生活が出来るように、手すりの配置や各居室への表札、トイレへの張り紙など工夫している。			